

留学先国名 : オーストラリア

留学先学校名 : マッコーリー大学

留学期間 : 平成 28 年 2 月 15 日 ~ 平成 28 年 7 月 8 日

マッコーリー大学では、留学生と現地の大学生の交流の場として様々なイベントを用意してくれます。そのイベントでは、現地大学生との交流だけでなく、シドニー観光ができ、友達を作ることもできました。こういったイベントは自由参加のため日本人留学生の参加率は低かったが、自分にとって良い経験となったので、積極的に参加することをお勧めします。マッコーリー大学では、日本語専攻の大学生がいるため、イベントを通して友達を作りやすいという環境があります。授業に関しては、一週間に 2 人の先生が交代で教えて下さるという仕組みです。月一回のテストがあり、クラス替えがあります。月によって、人数の差はありますが、15 人ぐらいです。授業内容は、教科書とプリントを使ったもので、先生のお勧めの音楽などで、リスニングを行うということもありました。そして、授業の始めは、自分たちが読んできたニュースや本の紹介をします。そこで、お互い間違えた発音を直しあったり、スピーキングの練習をしたりということになりました。お互いの情報を交換することによって、自分の知らない知識を得ました。こういった自分の知らない情報は、ライティングでも自分のアイデアを考えるとサポートしてくれると思います。クラスメイトの国籍は、韓国人や中国人が多いと感じました。6 月に受けたアカデミッククラスでは、コロンビアや中東の国籍のクラスメイトが入ってきて、そこでも、そういった国々の文化を学ぶことができました。また、海外で住むということは言語以外に様々な文化や制度を学べます。例えば、シドニーで ICOCA のようなカードを電車の乗り降りで一週間に 8 回以上使うと、9 回目からは無料で乗れるという制度があります。この制度があることによって、クラスメイトと遊ぶ機会が増えました。多種多様な国々の人とオーストラリアの観光地に行くことで、オーストラリアの文化を学ぶことができ、それぞれの国での文化や習慣などを教え合いました。英語以外にも、友達が韓国人やコロンビア人なら、韓国語を学んだり、スペイン語を教えてくれたりと、たくさんの言語に触れ合うきっかけになりました。また、日本語を教えることもありました。他にも、オーストラリア人との会話の中で、日本の大学の入試制度とオーストラリアの制度が違っていたりします。今まで、日本の教育制度などに関心はなかったが、現地の人とそういった会話をする中で興味を持つようになりました。実際、現地に滞在することによって、その国について知らなかったことがわかるようになると思います。

また、留学中に、2 週間ほどの休みがありました。その休みを有効利用するため、オーストラリアの英語ツアーに参加しました。英語のツアーでは、いろんな国々の人が参加し、1 人で参加している人も多いです。そこで、友達が出来たり、後日一緒に遊んだり、夜ご飯を食べたりしました。しかし、日本語のツアーでは、ほとんどが日本人であり、家族や友達と参加する人がほとんどで、そうした経験をするのが無いと思うので、ツアーを申し込むときは、英語ツアーをお勧めします。英語を学ぶ人にとってメリットがあり、コミュニケーション能力の向上にも関わってくると思います。僕自身は、ツアーで参加した人たちと話すのを躊躇しなくなりました。

最後に留学のデメリットについてです。オーストラリアに滞在していた間、インターネットは wifi 環境のある建物でしか使うことが出来ませんでした。そのため、道に迷ったときや、どこかに行きたいが場所がわからな
いときは、必ず人に聞かないといけないという状況になります。そこで、たくさんの人に英語を使い、質問し、
人の優しさをとても感じました。インターネットが使えないというデメリットをメリットに変えていくことも自分の
成長のためになると思います。そして、留学することにより、今後の大学生活での目標が決まり、日本に
帰ってからの計画やモチベーションが上がりました。今後は IELTS などの英語の試験を受けるため、もう一
度勉強し、再度留学することを決めました。